

## 平成27年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

生徒に次の3つの力を育み、生徒の自己実現を支援するとともに、「次代の地域社会の、良識ある担い手」を育成する。

1. 知力・体力・人間力！～《自ら学ぶ力》の育成
2. 進路（自己）実現をめざす！～《セルフ・コントロールの力》の育成
3. 人権感覚と豊かな人間性！～《人間関係づくりの力》の育成

## 2 中期的目標

## 1. 「自ら学ぶ力」の育成

(1) 学習への興味・関心の向上、基礎学力の定着、進路目標の早期設定等を通じて、達成感と自信、「やる気（意欲・意志）」を高めつつ、主体的に学習する態度を身につけさせる。

ア 「わかる！楽しい！授業づくり」

公開授業や研究授業、授業アンケート等を効果的に活用し、授業改善を進める。その際、全普通教室に配備したプロジェクター等を利用して、ICTを活用した授業の充実を進める。

**指標** 生徒による授業アンケート中の「授業に、興味・関心をもつことができたと感じている」の肯定的評価の前期・後期の平均値（平成24年度実績＝70.9%、25年度実績＝79.8%、26年度実績＝79.2%）が平成28年度実績で85%以上。

**指標** 平成28年度実績で、生徒向け学校教育自己診断における項目「授業はわかりやすい」の肯定的評価を70%以上（平成25年度実績＝65.2%、26年度実績＝65.3%）、「授業は楽しい」を65%以上（平成25年度実績＝54.6%、26年度実績＝59.3%）とする。

**指標** 生徒向け学校教育自己診断における「伯太高校には、教え方に工夫をしている先生が多い」の項目の肯定的評価を、平成28年度実績で65%以上（平成24年度実績＝40.1%、25年度実績＝55.5%、26年度実績＝60.8%）

イ 基礎的・基本的な知識・技能の定着をめざした取組について検討を進め、指導内容及びカリキュラムの工夫・改善を図る。

**指標** 生徒による授業アンケート中の項目「授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている」の肯定的評価の平均値（平成24年度実績＝71.1%、25年度実績＝81.1%、26年度実績＝80.7%）が平成28年度実績で85%以上。

**指標** 外部教育産業の試験の2年次の国数英3教科の平均点偏差値が、1年次を上回る（35期生：45.8→43.9、36期生：46.2→44.6、37期生目標：47.1以上）。

ウ エリア選択と多様な選択科目のガイダンスや進路HR、「グローバル・スタディーズ（GS）」（「総合的な学習の時間」）の取組等を通じて、生徒に将来の進路目標を早期に持たせ、学習活動や基本的生活習慣確立への動機付けを進める。

**指標** 進路希望調査の「未定」の回答割合（%）を、1年次から2年次にかけて半減させるとともに、3年次ではゼロに近づけるよう取り組む。

(2) 参加・体験型の授業実践を工夫し、生徒の言語活動を充実させることを通じて、生徒の「自分で考える力」、「自分を表現する力」、「発表する力」、「相手とコミュニケーションする力」の向上を図る。

ア 各教科・科目の授業において、生徒の言語活動を充実させる。その際、生徒自身がICTを用いる授業を充実させるようにも取り組む。

**指標** 普通科総合選択制高校共通アンケート（卒業前に実施）の上記4項目における肯定的評価が全項目とも平成28年度実績で55%以上（平成24年度実績は、各々47.9%、44.3%、34.9%、45.3%、25年度実績は61.0%、49.7%、34.3%、51.3%、26年度実績は61.3%、51.3%、43.5%、53.9%）

## 2. 「セルフ・コントロールの力」の育成

(1) 将来にわたって社会生活の基礎となる基本的な生活習慣の形成を図るとともに、規律・規範意識の醸成と社会人としての態度・マナーを育成する。その際、生徒との信頼関係を大切に、一人ひとりの生徒に寄り添いながら、家庭と連携した生徒指導に努める。

ア 学校生活の継続を困難化させる大きな要因となり得る遅刻・欠席等の状況の改善及び授業規律の確立を図る。

**指標** 平成27年度実績で「教務遅刻」数を13,000回以下、欠席数を7,000回以下とし、以降も毎年減少させる（実績：教務遅刻＝(H23)21,448回、(H24)19,484回、(H25)14,331回、(H26)11,897回、欠席＝(H23)9,178回、(H24)7,668回、(H25)8,424回、(H26)9,443回）。

**指標** 生徒向け学校教育自己診断における「授業では騒いだり私語したりする生徒はほとんどいない」の肯定的回答が H28年度実績で50%以上（平成25年度実績＝27.5%、26年度実績＝28.0%）。

イ 「ダメなものはダメ」と厳しく指導しつつ、生徒一人ひとりの課題を踏まえ、生徒や保護者の思いをくみ取る生徒指導を進める。

**指標** 生徒向け学校教育自己診断の「(a)伯太高校の先生は生徒の意見を聞いてくれる」、「(b)悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」、「(c)学校生活についての先生の指導は納得できる」、「(d)生活規律や学習規律などの基本的生活習慣の確立に力を入れている」の各項目の肯定的評価が平成28年度実績で各々(a)60%、(b)65%、(c)55%、(d)65%以上（平成24年度実績は各々47.5%、44.5%、44.0%、47.7%、25年度実績は51.8%、51.1%、47.7%、59.5%、26年度実績は56.6%、60.0%、50.7%、62.7%）。

(2) キャリア教育の一層の充実を図り、進路意識を高めること等を通じて将来の目標実現（自己実現）に必要なセルフ・コントロールの力の育成に資する。

ア エリア選択と多様な選択科目のガイダンスや進路HR、「グローバル・スタディーズ（GS）」の取組等を通じて、生徒の将来の進路目標を早期に持たせ、学習活動や基本的生活習慣確立への動機付けを進める。（再掲）

**指標** 進路希望調査の「未定」の回答割合（%）を、1年次から2年次にかけて半減させるとともに、3年次ではゼロに近づけるよう取り組む。（再掲）

**指標** 卒業時の進路実績満足度が毎年少なくとも8割程度となるよう取り組む。（平成24年度実績：79.8%、25年度実績：88.6%、26年度実績：84.5%）。

**指標** 卒業時（3月末）の進路未定率（浪人生含む）を、平成28年度に12%以下とする（平成24年度実績：16.7%、25年度：24.4%、26年度：22.9%）。

イ 様々な資格取得の支援やインターンシップの充実を通じて、望ましい勤労観や職業観を身につけるとともに、主体的に進路選択ができる能力の育成を図る。

**指標** 当面は、「漢検」、「英検」、「書写検定」、「パソコン検定」、「危険物取扱者」等の資格取得者数が毎年90名以上（平成24年度実績106名、25年度実績106名、26年度実績100名）、またインターンシップによる単位認定者数が毎年20名以上（平成24年度実績19名、25年度実績20名、26年度実績14名）とする。

## 3. 「人間関係づくりの力」の育成

(1) 「人権が尊重された教育活動」を根底にすえて、「グローバル・スタディーズ（GS）」のみならず、すべての教育活動において、生徒をエンパワーするための取組を進め、一人ひとりの生徒が自らの課題に向き合いながら、その課題を解決すべく取り組めるよう支援する。そのために、生徒どうしがつながれるような仲間づくり、ネットワークづくりを重視する。

注「エンパワー」とは『無力感を感じていた者が自分自身に内なる力を感じるようになる』過程をさす言葉（志水宏吉『学力を育てる』p.167、2005年、岩波新書）

ア 挨拶を含め、教職員から生徒への声かけをこれまで以上に積極的に行うとともに、生徒をエンパワーするための「集団づくりの取組」を一層推進する。

**指標** 生徒向け学校教育自己診断の「伯太高校に行くのが楽しい」の肯定的評価が平成28年度実績で65%以上、「自分の学級は楽しい」が75%以上（平成24年度実績＝それぞれ60.2%、65.6%、25年度実績＝54.6%、68.1%、26年度実績＝59.0%、69.6%）。

イ 責任感、連帯感などを涵養し「人間関係づくりの力」の育成に資するため、部活動の活性化を進める。また、そのための校内の環境及び施設設備を充実させる。

**指標** 部活動の加入率を40%以上、及び運動部の加入率を15%以上（平成24年度6月実績：部活動加入率＝35.0%、運動部加入率＝10.1%、25年度9月実績：部活動加入率＝36.0%、運動部加入率＝11.6%、26年度9月実績：部活動加入率＝36.0%、運動部加入率＝10.4%）。

(2) 地域とつながる取組を進め、教職員の「地域とともに子どもを育てる」という機運の醸成に努める。

ア 近隣の学校園等と連携・交流する取組や、生徒が地域にでかけていく取組を進める。

**指標** 現状の取組（地域清掃活動、支援学校交流、保育所交流、サイエンスカフェ等）の内容の充実及び新たな取組の実施をめざす。

※**指標** これらの全取組を通じて、退学者数の減少を図り、中退率で府平均値以下をめざす。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成27年11月実施分]	学校協議会からの意見
<p>1. 「自ら学ぶ力」の育成 生徒の学習意欲を高めるために、「わかる！楽しい！授業づくり」「基礎学力の定着」「進路目標の早期設定」「言語活動の充実」の四つの取組みを進めており、全校を挙げての研究授業の実施、ICTの活用及び授業におけるグループワークの導入等を通して、その成果は徐々に現れつつある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業満足度の肯定的評価では、「授業はわかりやすい」がH25年度65.2%→H26年度65.3%→H27年度63.1%、「授業は楽しい」がH25年度54.6%→H26年度59.3%→H27年度54.8%と、それぞれ推移している。</li> <li>教え方については、「教え方に工夫をしている先生が多い」がH25年度55.5%→H26年度60.8%→H27年度57.8%、「自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」がH25年度52.4%→H26年度63.1%→H27年度55.2%と推移している。これは、多くの教員がICTを活用したり、生徒の意見を引き出しながら授業を進めたりしていることを示している。</li> <li>しかし、40%前後の生徒は授業を「わかりやすい」「楽しい」と感じていないと回答していることから、今後とも、生徒同士の活動を取り入れるアクティブラーニングの手法をさらに研究するなど、学習意欲を高める授業改善を行い、生徒にとって「わかる」「楽しい」授業方法を模索する必要がある。</li> <li>進路指導については、「進学についての情報を知らせてくれる」がH25年度62.3%→H26年度75.2%→H27年度74.8%、「就職についての情報を知らせてくれる」がH25年度59.3%→H26年度73.5%→74.8%、「将来の進路や生き方について考える機会がある」がH25年度62.3%→H26年度72.2%→H27年度76.2%と年々上昇しており、LHRや「総合的な学習の時間(GS)」等での進路指導が少しずつ充実してきたことを示している。今後とも、生徒の実態を踏まえつつ、「進路目標の早期設定」という点から、より適切な進路指導を実施したい。</li> </ul> <p>2. 「セルフ・コントロールの力」の育成 生徒の高校生活への定着を図り、楽しい学校づくりを進めるためには、自らを律する「セルフ・コントロールの力」の育成が必要である。学校を挙げて、遅刻・欠席数の改善や服装・頭髪指導等の取組みを強化している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「生活規律や学習規律などの基本的な生活習慣の確立に力を入れている」がH25年度59.5%→H26年度62.7%→H27年度57.9%、「学校生活についての先生の指導は納得できる」がH25年度47.7%→H26年度50.7%→H27年度53.1%と推移しており、生徒との信頼関係を大切に地道な生活指導が浸透しつつあることを示している。一方、保護者の回答では「先生は、子どものまちがった行動をきちんと指導してくれる」がH25年度79.2%→H26年度77.7%→H27年度75.1%、「高校は、生徒に生命を大切にすることを心や社会のルールを守る態度を育てようとしている」がH25年度75.6%→H26年度77.7%→H27年度71.2%と、肯定的評価がわずかに減少しているものの、本校の教育方針が保護者からおおむね理解されていると考えられる。</li> <li>また、生徒用の設問「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」がH25年度51.1%→H26年度60.0%→H27年度59.6%、「先生は生徒の意見を聞いてくれる」がH25年度51.8%→H26年度56.6%→H27年度57.5%へと増加していることから、生徒一人ひとりの課題に応えられる指導・支援が少しずつ定着しつつあることを示していると考えられる。今後とも、さらに生徒の納得感を高められるよう、生徒との対話を一層深めながら生徒と深く関われる学校づくりをめざしていきたい。</li> <li>しかし、「授業では、騒いだり私語したりする生徒はほとんどいない」では、H25年度27.5%→H26年度28.0%→H27年度24.6%と肯定的評価が低く、学習意欲に対する指導が引き続き必要である。全生徒が授業に集中し意欲的に学習できるよう、全校を挙げて教員の指導力の向上を一層図るとともに、授業への集中度を高める取組みを推進したい。</li> </ul> <p>3. 「人間関係づくりの力」の育成 集団づくり、部活動の活性化、地域との交流は、生徒の人間力を高める意味で必要不可欠であり、学校行事や部活動等の機会を通して、これらの取組みを強化している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「自分の学級は楽しい」がH25年度68.1%→H26年度69.6%→H27年度66.8%、「伯太高校に行くのが楽しい」がH25年度54.6%→H26年度59.0%→H27年度58.3%、「伯太高校に入学してよかった」がH25年度70.9%→H26年度75.3%→H27年度69.1%と推移している。3割前後の生徒が学校に来ることをあまり楽しいと思っていないと回答していることから、学校の「居場所」としての機能の強化を図る必要がある。</li> <li>部活動の活性化については、部活動加入率が数年前の20%台から36%まで高まってきてはいるが未だ加入率が低い。部活動は、学校における集団づくりの一つの基本的単位をなし、生徒にとって基本的な生活習慣の定着や学習意欲の向上、責任感や連帯感などを高める上でも大きな効果をもたらすものであることから、より一層の活性化に努めたい。</li> <li>人権教育については、H25年度より「いじめ」についての取組みを強化し始めたところである。その結果、「先生はいじめなど私たちが困っていることについて真剣に対応してくれる」ではH25年度57.0%→H26年度62.8%→H27年度61.9%と推移しており、今後とも、教育相談とともに人権教育の推進に努めたい。</li> <li>保護者の回答から、「伯太高校では、自分の生き方を考え、豊かな心をもった生徒を育てようとしている」ではH25年度63.3%→H26年度72.7%→H27年度67.3%、「先生は、全ての教育活動において、生徒の人権を尊重する姿勢で指導にあたっている」ではH25年度66.4%→H26年度70.1%→H27年度69.5%、「高校は、生徒に人権を尊重する意識を育てようとしている」ではH25年度68.8%→H26年度68.4%→H27年度71.6%と推移し、教職員の指導姿勢にはおおむね共感していただいている。人々が互いの人権を尊重することがこれからのグローバル社会や情報社会を生きていく上での基礎をなすものであり、今後とも取組みを行っていききたい。</li> </ul> <p>4. その他 「本校に入学して(させて)よかった」の肯定的評価は、生徒がH25年度70.9%→H26年度75.3%→H27年度69.1%、保護者がH25年度77.8%→H26年度87.9%→H27年度86.5%とおおむね増加している。これは、保護者、中学校、地域等から一定の評価をいただいている結果だと考えている。今後とも、地域に根ざし、中学校や大学等とも連携を一層深めて、生徒にとって「入りたい学校、入ってよかった学校」と感じてもらえるよう、教育活動の充実を図っていききたい。</p>	<p>【第1回】(平成27年6月13日開催)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中退者を減らすために、さまざまな努力をされていることが分かった。その際、スクールカウンセラーのような専門家とともに、地域と連携するためにスクールソーシャルワーカーを活用するなど、家庭の事情にも配慮しながら慎重な対応をお願いしたい。</li> <li>アルバイトは社会勉強にもなると思う。面接試験で高校生の時にどういうアルバイトをしていたかと聞かれるケースもあり、苦しいことがあったとき、どう乗り越えたかということも大切である。</li> <li>授業見学させてもらい、女子の人数が多いことに気づいた。また、普通教室にはすべてプロジェクターをつけていることで、授業に興味を持ってもらえることはよいことである。</li> <li>次の学習指導要領ではアクティブラーニングを取り入れなさいということになると聞いている。このことも意識しながら授業を見学した。アクティブというのは能動的であるので、子どもと先生、子ども同士の学習活動となるよう、指導法の工夫を一層お願いしたい。</li> <li>近い将来、伯太高校が大きく変わるということだが、学校が変わっても、これまでと同様、多様な授業を提供し、中学生が伯太高校に行きたいと言ってもらえる学校づくりを期待したい。</li> </ul> <p>【第2回】(平成27年11月14日開催)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>勉強合宿に参加する生徒が増えたことはよい兆候である。来年度は人数枠をもっと増やすなど、さらに学習意欲を高める取組みを期待している。</li> <li>懲戒数が減ってきたのは教職員の見回りなどさまざまな工夫をされた結果と理解している。また、遅刻数も合わせて減少しており、教職員の地道な努力が実を結んできていると思う。</li> <li>就職に関して、卒業した女子の未定率が男子より高いことが気になる。理由として、女子が希望する職種が少ない、小売店ではアルバイトしかとらず、そこで経験を積んでから採用するところもあるなど一定の理由があるようであるが、引き続き、未定率の減少に取り組んでほしい。</li> <li>進路を決める上で、社会で働いている先輩の話聞く機会を持つことができればとても効果的だと思う。そのためにも卒業した先輩と在校生の交流を持つためのネットワークを作ってほしい。定期的に、進学をめざしている生徒と卒業生との交流や就職をめざしている生徒と会社等ががんばっている先輩との交流を持てたらよいと思う。卒業生と話をする場を持ってほしい。卒業生とのネットワークを作るためにも同窓会室を設けたらよいと思う。</li> </ul> <p>【第3回】(平成28年3月5日開催)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>進路指導について、生徒卒業後の追跡調査を行い、在校生に対する進路指導の参考とすることがよいと思う。卒業生から、進学先や就職先の状況を聞くことができれば、参考になる。</li> <li>学校に係る様々なデータを取る際には、3年程度の短期間ではなく、もっと長い期間で調査した上、取組みがどのように変化したかについて結果を基に検討すると学校改善の参考になる。</li> <li>多くの中学校では、朝の読書などの取組みが進んでいるので、来年度から伯太高校で始められる朝学習についても、取り組みやすいものと考えられる。</li> <li>「気になる生徒の情報交換」という取組みは大切である。そこで得た情報を教員に周知していただき、生徒への個別対応に生かしてもらいたい。</li> <li>生徒の家庭状況や就学支援状況など、教員と事務室が共有できる情報があるならば、生徒指導や家庭との対応に活かせるものと思う。</li> </ul>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 《自ら学ぶ力》の育成	1. 学習意欲を高める取組の推進 ア. 「わかる！楽しい！授業づくり」	1ア. ・学校として研究授業、公開授業を積極的に推進し、これらを行う教員数を増加させる。 ・授業における ICT 活用実績を一層増大させる。 ・「教師が教える授業」と「生徒が学ぶ授業」を意識した取り組み推進のため、研修を企画・実施する。	1ア. ・府立学校等に対して公開する研究授業数を H25年度程度(H24年度実績=7回、25年度=14回、26年度=20回)。 ・授業アンケート中の項目「授業に、興味・関心をもつことができたと感じている」の肯定的回答の前期・後期の平均値82%以上 (H26年度実績79.2%)。 ・生徒向け学校教育自己診断における項目「授業はわかりやすい」の肯定的評価を68%以上 (H26年度実績65.3%)、「授業は楽しい」を62%以上 (H26年度実績59.3%) とする。 ・生徒向け学校教育自己診断における項目「伯太高校には、教え方に工夫をしている先生が多い」の肯定的評価62%以上 (H26年度実績60.8%)。	・10回 (○) ・77.3% (△) ・「わかりやすい」63.1% (△) ・「楽しい」54.8% (△) ・「工夫」57.8% (△)
	イ. 基礎学力の定着をめざす取組	1イ. ・基礎学力の定着をめざす取組について充実を図る。 ・総合学科改編に向け、授業内容や教育課程の改善を含めた検討を具体的に開始する。 ・勉強合宿を充実させる	1イ. ・授業アンケート中の「授業を受けて、知識や技能が身についたと感じる」の肯定的回答83%以上 (H26年度実績80.7%)。 ・外部教育産業の試験の2年次の国数英3教科の平均点偏差値が、1年次を上回る (36期生実績: 46.2→44.6)。 ・勉強合宿参加者を前年度より増やす。(H26年度実績8名)	・78.5% (△) ・43.5→44.8 (○) ・25名 (◎)
	ウ. 進路目標の早期設定の取組	1ウ. ・3年間を見通した進路指導の計画を充実させ、1年次早期から進路目標を持たせるための指導を行う。	1ウ. ・1年次から2年次にかけての「未定」率の半減の実現 (38期生: 1年次32.7%) 及び3年次にはゼロに近づける (37期生: 1年次37.7% ⇒2年次32.3%)。	・38期生: (△) 1年次32.7%→2年次31.8%
	2. 言語活動の充実 ア. 言語活動充実と生徒による ICT 活用	2ア. ・各教科・科目での生徒の言語活動 (発表、ディスカッション、ペアワーク等) を充実させる。	2ア. ・普通科総合選択制高校共通アンケートの指定4項目 (中期目標参照) の各肯定的評価が50%以上かつ平成26年度実績を上回る (実績は中期計画欄参照)。	・(a) 72.2% (◎) ・(b) 63.3% (◎) ・(c) 52.8% (◎) ・(d) 66.7% (◎)
2. 《セルフ・コントロールの力》の育成	1. 基本的な生活習慣の形成に係る取組の推進 ア. 遅刻指導の工夫・改善と授業規律の確立	1ア. ・遅刻指導についての工夫・改善を図り、遅刻者数の減少を図る。 ・授業規律の確立に向け、授業中の私語等をさらに減らす。	1ア. ・H27年度実績で遅刻数11,000回以下 (H26年度実績11,897回)、欠席数8,000回以下 (同9,443回)。 ・H27年度学校教育自己診断の「授業では騒いだり私語したりする生徒はほとんどいない」の肯定的回答40%以上。	・(◎) 遅刻数9,460回 欠席8,375回 ・24.6% (△)
	イ. 生徒指導の充実	1イ. ・生徒指導体制の充実を図り、学校全体として指導基準を共有しながら取組を進める。	1イ. ・学校教育自己診断中の指定4項目 (中期目標参照) の肯定的回答55%以上かつ平成26年度実績を上回る。	・(a) 57.5% (○) ・(b) 59.6% (○) ・(c) 53.1% (◎) ・(d) 57.9% (△)
	2. キャリア教育の充実 ア. 進路目標の早期設定の取組 (再掲)	2ア. ・3年間を見通した進路指導の計画を充実させ、1年次早期から進路目標を持たせるための指導に着手する。(再掲)	2ア. ・1年次から2年次にかけての「未定」率の半減の実現 (38期生: 1年次32.7%) 及び3年次にはゼロに近づける (37期生: 1年次37.7% ⇒2年次32.3%)。(再掲) また卒業時での進路実績満足度が少なくとも8割程度 (36期生) (H26年度実績84.5%)。 ・卒業時 (3月末) の進路未定率 (浪人生含む) を、14%以下とする (H26年度実績22.9%)。	・38期生: (△) 1年次32.7%→2年次31.8% ・88.4% (◎) ・8.2% (◎)
3. 《人間関係づくりの力》の育成	イ. 資格取得支援とインターンシップの充実	2イ. ・資格取得支援の取組を充実させる。 ・インターンシップを充実させる。	2イ. ・「漢検」、「英検」、「書写検定」、「パソコン検定」、「危険物取扱者」等の資格取得者数が90名以上。(H26年度実績100名) ・インターンシップによる単位認定者数20名以上。(26年度実績14名)	・223名 (◎) ・14名 (△)
	1. 生徒をエンパワーするための取組 ア. 集団づくりの充実	1ア. ・登下校指導時等を含め、生徒から教職員や外部の方々への挨拶励行の指導を推進する。 ・学級、学年及び部活動を核とした集団づくりを推進する。 ・「伯太高校レーダーチャート (HERC: ハーク)」を生徒一人ひとりの課題や生徒状況の把握に活用する。	1ア. ・生徒向け学校教育自己診断の「伯太高校に行くのが楽しい」の肯定的評価が62%以上 (H26年度実績59.0%)、「自分の学級は楽しい」が72%以上 (H26年度実績69.6%)。 ・登下校指導を原則毎日実施する (H26年度実績毎日実施)。 ・学校行事等における集団づくりを年間10回実施する。(H26年度実績12回) ・「伯太高校レーダーチャート」を引き続き活用する。	・「高校楽しい」58.3% (△) ・「学級楽しい」66.8% (△) ・毎日実施 (○) ・11回 (○) ・実施済 (○)
	イ. 部活動の活性化	1イ. ・体験入部等の取組を充実させるとともに、後援会等からの部活動支援を通じた部活動活性化策を充実させる。 ・部活動を活性化するため、校内環境や施設整備を充実させる。	1イ. ・部活動加入率を40%以上、及び運動部加入率を15%以上 (H26年度実績: 部活動加入率=36.0%、運動部加入率=10.4%)。 ・生徒向け学校教育自己診断の「伯太高では部活動が活発だ」の肯定的評価が55%以上 (H26年度実績51.5%)。	・部活動加入率32.5% (△) 運動部加入率11.0% (△) ・実施せず
	2. 地域とつながる取組 ア. 地域との交流等	2ア. ・現状の取組を継続するとともに、新たな取組 (特に近隣中学校等との連携) を実施する。	2ア. ・地域と連携した取組を20回以上行う。(H26年度実績18回)	・27回 (◎)